



夏も冬も 練習場所は体育館



新冠町の海岸線は雪が少なく、冬期間も雪合戦をするだけの雪が集まらないため、季節に関係なく、いつも体育館で練習を行っています。練習は集まった人たちが即席チームを作り、ミニゲームで汗を流しています。

ミニゲームの合間は、技術向上のための自主練習や戦術について意見交換を行っており、大会以外は所属チームの概念はなく、全員で雪合戦競技と向き合っていました。



コートに入って見る玉のスピード感はかなりなもの。

ちょっと豆知識

体育館で使用する玉は全て手作り

雪合戦をするのに欠かせないものは「雪玉」。室内で雪合戦を行うには代わりの物を使う必要があります。

ゴムボールや玉入れの玉など、競技で使う雪玉と同じような重さと転がり方をする物を探した結果、たどり着いたのが「古布で重さ調整をして丸めた軍手」でした。

雪玉代わりの「重さ調整をして丸めた軍手」は、試合開始時にどちらのチームの玉か判別しやすいよう白と黒の軍手を使い、玉の数は合わせて140個。また、この玉は、事務局長の小林さんが全て手作りしたもので、雪合戦への情熱を感じる物となっています。



樋口 葵惟さん、佐々木 直子さん、中村 梨乃さん



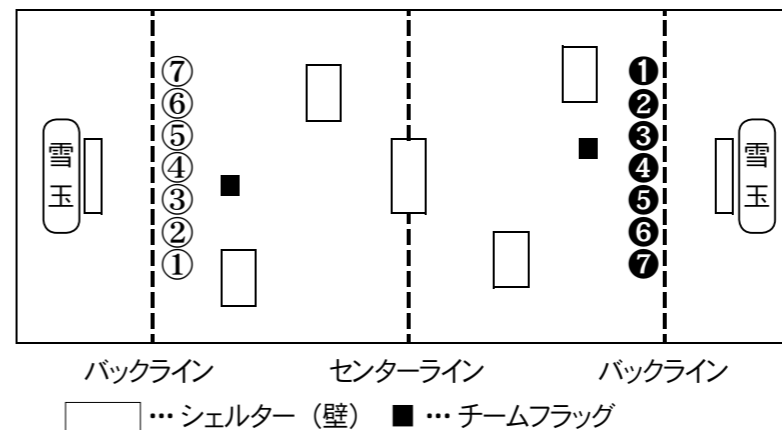
特集 新冠町雪合戦連盟



『夏ですが私たち雪合戦を楽しんでます♪』

雪合戦の競技概要（一部抜粋）

- コートは長さ 36 m、幅 10 m のコートを使用。
- コート内には 7 基のシェルター（壁）があり、双方にチームフラッグを立てる。
- チームは選手 9 名（出場 7 名、補欠 2 名）と 1 名の監督で編成
- 1 セット 3 分間の 3 セットマッチで、2 セット先取したチームが勝ち。
- 雪玉をノーバウンドで当てられると、その選手は退場。
- 相手チームのフラッグを抜くか、終了時に残った人数が多いチームがセットを取得。
- 1 セットで使える雪玉は 90 個。



新冠町での雪合戦活動は、平成15年度から始まりました。新冠町で初めて行われた雪合戦活動は、冬期間に行われた新冠中学校野球部のトレーニングでした。その後、平成17年度に新冠中学校グラウンドを会場に昭和新山国際雪合戦第1回日高地区予選が行われました。

しかし、積雪が少ない新冠町での屋外開催は困難なことから、平成18年度以降の日高地区予選は屋内で行われ、他のスポーツ教室や新冠町子ども会育成連絡協議会の事業として行われた雪合戦事業も屋内で行われています。

永年にわたり屋内で雪合戦活動を行っている事例が全国的にも珍しい新冠町雪合戦連盟を今回取材しました。